

- 中堅・中小企業のなかで、ニッチ・トップ製品を複数保有し、そのうち少なくとも一つは海外市場でもシェアを確保している、グローバル・ニッチトップ（GNT）企業が注目されている
- GNT企業は、全国各地に分布し、地域を代表する企業として良質な雇用機会提供等で地域経済に貢献しているだけでなく、国内における基盤的技術・生産技術の継承・発展の担い手として、更には製品イノベーション創出の役割も担っている。
- GNT企業は、「イノベーション・コーディネート（IC）機能」と言われる、1）ユーザーが自ら解決できない高度なニーズを、ユーザー側から持ち込んでもらえる緊密なネットワークを持ち、2）自社に足りない技術シーズを外部の異なる複数のプレイヤーから調達して有機的に結びつける能力、の二つを兼ね備えており、日本に不足している、「橋渡し」役としての能力が高い企業とも考えられる。

新しい企業間連携 = スーパー新連携の動き

OGNT企業をハブとした新たな創造的ものづくりの動き

大企業が全般的プレゼンスを低下させ、特定の加工を担う多くの基盤技術型中小企業が需要面から事業継続を危ぶむ日本の状況

→GNT企業が「ハブ」となって、大企業の役割を代替し、関連中小企業を束ねて創造的ものづくりを行う「スーパー新連携」と呼ぶべき新たな動き。

○具体的な事例 - 6つの異なるパターン

- 1) 内外の企業（の海外事業所）からハイスペックの部品量産を受注し、単工程の加工中小企業に発注（ゼネラルプロダクション(株) (京都府相楽郡精華町)）
- 2) 加工サービス企業が連携して市場規模が小さいなどの理由により大企業により製品化されずにいた市場ニーズを元に新製品を開発（ファイブ・テック・ネット、(株)大阪ケイオス）
- 3) 大企業が中断した研究開発の中間的成果（休眠シーズ）を発掘し、自社の製品開発の要素技術として活用（(株)エリオニクス（東京都八王子市））
- 4) 既存取引先の川上・川下企業と連携し、新規ニーズを探索し、共同開発等を目指す（(株)エリオニクス（東京都八王子市））
- 5) 国の競争的資金を活用し大企業、大学等と組成した研究開発コンソーシアムに参加し、大企業が市場規模等で開発に消極的なものを引き取って製品化（(株)鬼塚硝子（東京都青梅市））
- 6) 国の競争的資金を活用し既存メーカーに開発を依頼できない高性能加工機械を自社で開発（大月精工(株) (山梨県大月市)、(株)スズキプレシオン（栃木県鹿沼市））

概念図：スーパー新連携の動き

